

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-8011
 住 所 東京都中央区築地5-3-2
 氏 名 株式会社朝日新聞社
 代表取締役社長 中村 史郎 印
 (代理人) 常務取締役東京本社代表 小西 勝英
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社 朝日新聞社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 中原区西加瀬19-1		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	G	情報通信業
	中分類	41	映像・音声・文字情報制作業
主たる事業 の内容	①日刊新聞その他の新聞、雑誌、書籍の制作、発行および販売②各種電子・電 波メディアによる情報提供サービス③音楽、美術その他の文化事業の開催		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,894 k l	
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数	台	
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO ₂	
連絡先	担当部署	担 当 部 署 名	
		所 在 地	
		電 話 番 号	
		F A X 番 号	
		メー ル ア ド レ ス	

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	朝日新聞社の環境への取り組みは、社のサイトasahi.comで公開しています。 https://www.asahi.com/corporate/csr/12940413

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

1. 事業者全体基本方針

- ・新聞印刷・梱包事業が環境に与える影響を把握し、環境汚染の予防を図ります。
- ・環境改善に向けて電力などの省エネルギーを重点テーマに取り組みます。
- ・この環境方針の達成のための目的・目標を設定し、社員と委託会社従業員にも広く知らせ、全部門・全職場を上げて取り組むとともに、定期的に見直します。

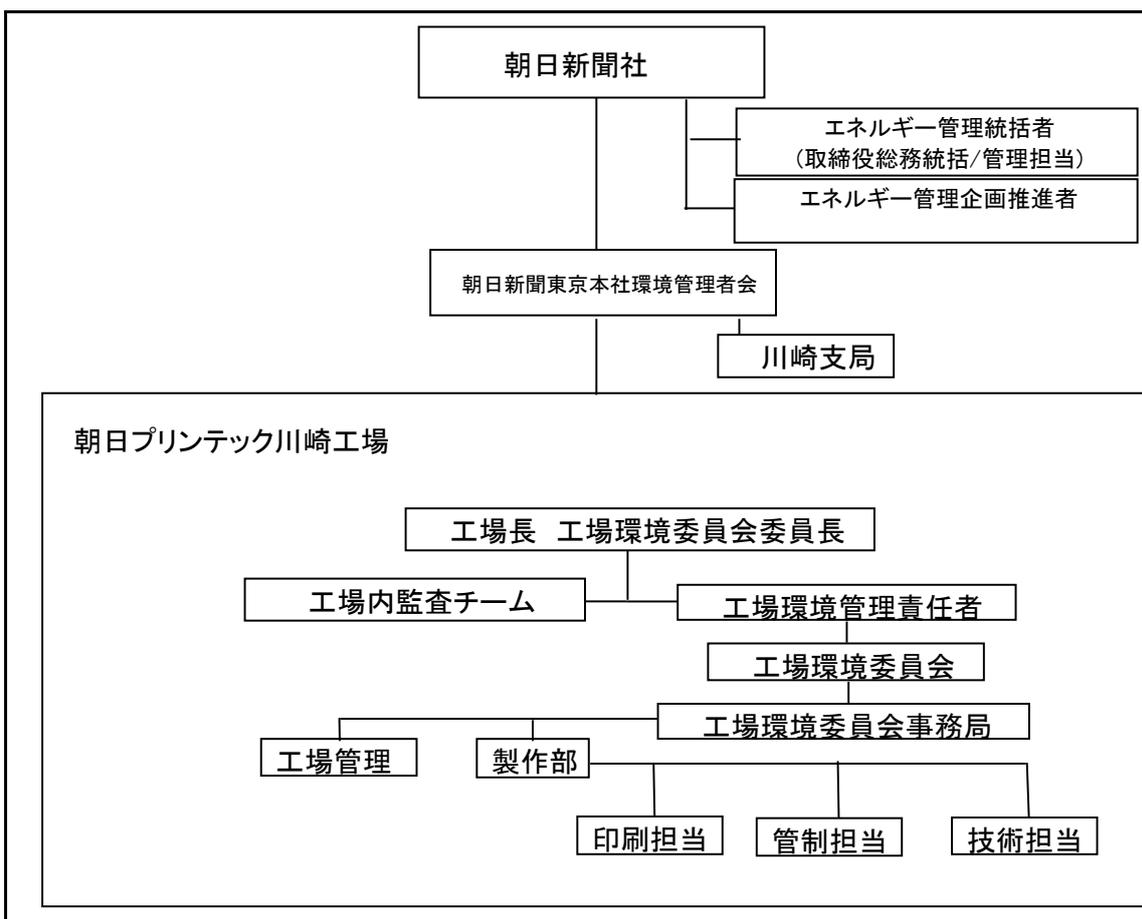
2. 朝日プリンテック川崎工場の実施計画の方針

朝日プリンテック川崎工場は、住宅地に近接していることもあり、「環境にやさしい工場」づくりに努力します。また2012年の4月から太陽光発電を開始したように、積極的な環境への貢献も図ります。また約1万5,500平方メートルの敷地の4分の1以上を緑地とし、約5千本の樹木を植え、ビオトープや、社員の食堂から出る生ごみを堆肥(たいひ)化して利用する畑など生物多様性にも配慮しています。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDC Aサイクル）を行うための方針

工場で組織された環境委員会で省資源(損紙率、損版率)、省エネルギー(CO2排出量)、リサイクルの推進と廃棄物削減の目標を設定し、削減への取り組みを行い、毎月の実績を集計。月例報告により各組織に周知します。月ごとに目標を達成できなければ各組織の行動を見直します。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
基準	年度	2021 年度	
目標	年度	2024 年度	
基準	排出量	(実) 3,459 (調) 3,432 t-CO ₂	(実) (調) t-CO ₂
目標	排出量	(実) 3,366 (調) 3,339 t-CO ₂	(実) (調) t-CO ₂
削減量		(実) 93 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
内訳	対策実施による削減量	(実) 93 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実) 0 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
削減率		(実) 2.7 %	(実) %

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
原単位等の活動量			
原単位の単位			
基準年度の値			
目標年度の値			
削減率		%	%

ウ 目標設定に関する説明

電力は21年度実績比 -2.67%
 冷凍機等の熱源機器更新で約183396 k Wh削減の見込み。生産動力は21年度並みで試算。
 ガスは21年度実績比 -2.98%
 ボイラー類の更新を控えているので、更新後年間で約2300m³削減の見込み。
 以上の理由で温室効果ガスの排出量削減を図れると試算し、排出量の値を3年で2.7%の削減を目指す目標値とした。
 事業活動地球温暖化対策指針別表の基本対策のうち、実施予定のものについては全て実施することを目標設定に反映した。また、今回の基準年度までで実施済の項目でも、より改善できる項目については引き続き対策として実施することにした。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

朝日新聞社の2010年度末までの自主計画では、01年度比で10%の温室効果ガスを削減することを目標にし、23.2%の削減率を達成して終了した。11年度からは改正省エネ法に積極的に取り組み、エネルギー消費原単位を年平均で1%削減を目指している。

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	<p>朝日プリンテック川崎工場における措置は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 照明器具の運用管理 <ul style="list-style-type: none"> ・LED器具へ順次更新。 ・照明スイッチのグルーピング化の見直しと、こまめな消灯の心掛け。 ・廊下、事務室の照明器具をLED器具に更新。 2. 空調設備の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・空調スケジュールの見直しと、季節による運転時間の変更。 3. 空調、熱源設備更新 <ul style="list-style-type: none"> ・工場の老朽化している空調、熱源設備の見直し、更新。
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	/

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<p>○空調スケジュールの見直しと、季節による運転時間の変更。 ○空冷チラーR-5の更新</p>
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	2012年3月30日より朝日プリンテック川崎工場に100kW太陽光発電を設置して稼働させている。
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電設備	川崎工場屋上に100kWの発電パネルを設置。 129,270kWh/年、全量自家使用	2012年設置
太陽光発電設備 (2021年度実績)	119,032kWh/年、全量自家使用、設置年度比：92%	—

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	特になし。
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. グリーン購入の推進 2. 廃棄物の削減と分別化の推進 3. 輸送委託業者に対する川崎市エコ運搬制度の要請 4. 川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)への参加
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	3,459	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

1,894	KL
-------	----

ウ 事業所の数

2

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
株式会社 朝日プリンテック 川崎工場	中原区西加瀬19-1	3,457 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂